

5. むすび

気象学的に合理的な可照時間は第1図のAからBまでの時間であろう。すでに述べたようにわれわれは東北地方の246地点について地形を考慮した可照時間を算出したが、第1表(a)および(b)において『差』が0.5時間以下の地点では日照計が記録不可能な時間をなお多少とも可照時間に含んでいるとみてよい。気象庁の現行規程にもとづく日照率をそのまま用いるか、手間をかけて地形や日照計の感度等の全部または一部を考慮にいたした計算を行なうかは、利用の目的、つまり必要とする精度によることである。

文 献

- 1) Kitaoka, T. and Y. Matsuoka, 1948: On the "Trübungsfaktor" of the atmosphere in Japan with silver-disc pyrheliometers, Geophys. Mag. 15, 5~26.
- 2) 仙台管区気象台, 1967: 観測所における実際の日出・日没時刻ならびに可照時間, 東北技術技術だより(仙台管区気象台刊), 31.
- 3) 岡田武松, 1934: 気象学上巻, 335~338.
- 4) 吉田作松, 1966: 太陽方位高度図について, 東北技術だより, 21, 37~40.
- 5) 吉田作松, 1967: 仙台における水平面日射量と大気透過率について, 同上, 28, 5~11.

理 事 会 だ よ り

第14期 第19回 常任理事会議事録

日 時 昭和43年4月22日 15.00—19.30

場 所 気象庁第2会議室, 予報部会議室

出席者 畠山, 北岡, 根本, 岸保, 小平, 桜庭, 大田, 神山, 須田, 朝倉(常任理事)

報 告

1. 北大理学部の故葛西俊之氏, 同田沢誠一氏の葬儀に理事長名の弔辞を北海道支部に依頼した。
2. 会員の増加状況について昭和42年4月~43年3月に入会161名退会35名差引126名増加した。1カ月毎に取りまとめ常任理事会の承認を受ける手続を励行すること。

議 題

1. 総会の準備

理事長のあいさつおよび経過報告に入れるべき事項を各担当理事は4月末までに庶務理事に提出すること。

大気物理研究所, GARP の事後報告および学術会議の報告もする。総会議事録は大会委員長が作

ることになっているので気象研究所で作成してもらおう。

学生会員制が決議されたら9月までに準備を整え10月1日から実施する。

2. その他

地物研連の気象分科委員のうち荒川秀俊氏の代りに川瀬二郎氏を推薦したい。

(結果) 本人が承諾されれば理事会は承認する。

(任期は43年11月まで)

IUGGの総会がモスクワで4年目に開催されるが2年間に気象分科会を開くかどうか。海洋は1970年に日本で分科会を開くことを学術会議に申し出たとのことである。

(結果) ほかが開かなければ特に開く必要はない。

(総会の議事録, 常任理事会の議事録を文部省へ出すことになっているから今後忘れないよう注意すること。)